

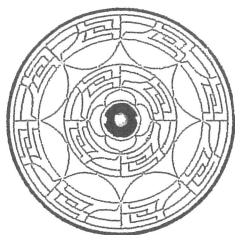
書陵部紀要

第61号

〔陵墓篇〕

目次

古墳の墳丘における横穴式石室の位置について	白石太一郎 (1)
大吉備津彦命墓の墳丘外形調査報告	陵墓調査室 (21)
平成20年度 陵墓関係調査報告	陵墓調査室 (30)
『書陵部紀要』(第1号～第60号) 所収 陵墓関係論文等総目次	(131)
彙報	(137)



平成21年度

宮内庁書陵部

書陵部紀要 第61号 目次

右大臣兼実の家礼・家司・職事	宮崎康充 (1)
『郢曲相承次第』再考	池和田有紀 (13)
『看聞日記』に関する書誌学的考察	田代圭一 (29)
親王・王成年式表	小倉慈司 (47)
裕仁親王御成行啓年表稿VI	岩壁義光 (68)
資料紹介	
『河内国高連御牧関連文書』	櫻井彦 (82)
彙報	(89)

『書陵部紀要』〔陵墓篇〕刊行の辞

『書陵部紀要』は、図書寮本を主な資料とした皇室・宮廷に関する歴史学的文学的調査研究、陵墓に関する調査及び考証、正倉院宝物についての諸調査などの成果を公表し、学界ならびに関係諸方面の参考に供し、批判をも仰ぐことを目的とし、発刊されたものである。

本紀要は昭和26年3月に第1号が刊行されて以来、平成21年3月までに60号を数えるに至った。その間、昭和54年3月には、正倉院宝物や聖語蔵経巻の保存管理と調査研究をおこなっている正倉院事務所の業務に関わる部分が、『正倉院年報』（現在は『正倉院紀要』）として分冊・独立していった。今回、さらに『書陵部紀要』〔陵墓篇〕として分冊・独立し、『書陵部紀要』本冊と併せて、より内容の充実を図ろうとするものである。

書陵部は現在、図書課、編修課、陵墓課の三課体制で、戦前の宮内省図書寮と諸陵寮時代の活動を継承している。つまり、現代に引き継がれた歴史的な資料の整理と公開をおこなうとともに、皇室の制度や文化の総合的な調査研究をしている。

三課のうち、陵墓課は陵墓の管理、調査及び考証を業務とするものである。調査及び考証に伴い得られた知見の一部は、『書陵部紀要』や三課交替で開催する展示会などを通じ、広く公開している。

調査についての報告は、古代高塚式陵墓の保全整備工事に伴う事前調査などが多くを占めている。近年では調査規模も大きくなり、その報告にあたっては、詳細な実測図や写真図版などの占める割合も高くなってきた。また、陵墓の墳丘外形調査などもおこない、従前の墳丘測量図の精度の向上と情報量の増加にも努めているが、そのためには図面が大判となり、全容を公表できないものもあった。

その他に、陵墓課で保管している多くの陵墓関係文献や考古資料についても、調査研究成果は確実に蓄積されており、公表の場の拡大が求められていた。とりわけ後者の考古資料については、年次計画に基づき、修復・複製・保存処理といった事業も実施しており、その過程で得られた成果も多い。

このような成果を報告するに際し、従前の『書陵部紀要』では頁数等に制約があり、十分に意を尽くせないものがあった。

そこで、新たに『書陵部紀要』〔陵墓篇〕を刊行し、陵墓関係報告の一層の充実を図り、学界その他関係諸方面に、陵墓に関するより具体的な資料を提供するとともに、書陵部関係職員のみならず、部外の研究者の論考等も掲載し、陵墓に関心をもつ人々との意見の交換を図りたいとも考える。

『書陵部紀要』〔陵墓篇〕の刊行を契機に、陵墓に関する研究がさらに発展することを念願するとともに、関係方面の引き続きの御協力をお願いするものである。

宮内庁書陵部

